

宮澤・レーン『スパイ冤罪事件』の再来をゆるさず、安倍政権の 『憲法破壊の一切の戦争法』の破棄を要求する決議

北大生・宮澤弘幸は、74年前、道東旅行中、車中村人から根室に海軍飛行場があることをききました。その飛行場のことを恩師の英語教師・レーン先生に話したとされ、軍機保護法違反のスパイ罪として、懲役15年の重刑に処せられたのです。

当時、根室の海軍飛行場は、公知の事実でした。取調べは、過酷をきわめました。宮澤弘幸は、公判を通じ頑として冤罪を受け入れることはありませんでした。戦争の最初の犠牲は真実です。宮澤弘幸は、戦争への道を開く『嘘』『事実の捏造』を絶対に認めず、『スパイ罪』デッチアゲの如何なる拷問にも屈することはありませんでした。然し、宮澤は酷寒の網走刑務所に送られ、寒さと栄養不良で結核を患い、敗戦で釈放されるも、獄死同然の死に追いやられたのです。

日本のアジア侵略とファッショの戦争理念は、『天皇を絶対とした国体贊美の思想・教育勅語』でした。戦後日本国民はあの侵略とファッショの政治を反省し、『非戦平和の日本国憲法』を確立し（その精神に則る）『真理と平和を希求する人間の育成を期する』教育基本法を創りました。いま、安倍政権は戦後レジームの解体を叫び、その教育基本法と憲法解体を公然と進めています。

安倍政権は、7月15日、衆院平和安全特別委員会を開き『国連平和支援法案を含む十一の戦争法案』を一挙に可決し、日本を『憲法破壊の異常な準戦争体制』へと急変させました。そのうえ政府は、いま『共謀罪』まで導入しようとしています。そして、日本国土の0.6%の狭い沖縄の地に、米軍施設の74%を強い、さらに、いま辺野古に巨大米軍事基地を建設し、集団的自衛権を発動し、米軍とともに、地球の裏側にまでかけて戦争する国に変えようといっています。

私達は、安倍政権の憲法破壊の暴挙を満身の怒りを込めて糾弾します。

安倍政権の戦争法の道を拒否し、諸国人民、諸民族の平和的生存権を尊重し、誠心・平和・善隣・友好の道を歩むものであります。

以上決議する。

2015年12月6日

—特定秘密保護法廃止！安保関連法＝戦争法廃止！—

宮澤・レーン・スパイ冤罪事件の再来を許さない道民のつどい